

# 令和2(2020)年度水稻生育診断予測事業速報 No. 1

## (コシヒカリ、とちぎの星 5月25日調査結果)

令和2(2020)年5月26日  
栃木県農政部経営技術課

茎数の確保が遅れている。夜間かん水、日中止水（浅水）として水温・地温の上昇を図り、分けつ発生を促進する。有効茎が確保されたら速やかに間断かん水に入る。（平年は6月第2半旬）

### 1 気象概況<<4月上旬～5月中旬（宇都宮）>>

平均気温は、4月上旬は平年並に経過したが、中旬は平年より2.1℃、下旬は1.6℃下回った。5月上旬は平年より1.8℃、中旬は2.2℃高く経過した。日照時間は5月上旬は平年比123%、中旬は113%と多照であったが、18日以降23日まで曇天が続いた。降水量は4月は平年の141%と多く、水不足による代かき移植作業の遅れはなかった。

### 2 調査結果

#### (1) コシヒカリ

##### ア 苗調査（農業試験場、現地調査結果）

苗の草丈は平年並み（平年比97%）、乾物重はやや軽く（平年比95%）、葉齢は2.4葉から3.6葉とバラツキがみられた。

##### イ 本田における生育調査（農業試験場調査結果）

- ・草丈は25.1 cm（平年比98%）、茎数は163.2本/m<sup>2</sup>（平年比116%）と平年より多いが、現地調査ほ場では分けつの発生がみられないところがある。
- ・葉齢は4.9葉で平年より0.3葉少なく、葉色は3.2で平年より0.5淡い。
- ・葉色×茎数値は522で平年比99%となっているが、茎数確保が遅れている現地調査ほ場は300以下と生育量が少なくなっている。
- ・イネミズゾウムシの発生は、10カ所中5カ所で確認されている。

#### (2) とちぎの星（農業試験場調査結果）

##### ア 苗調査

苗の草丈は平年並み（平年比103%）であったが、乾物重は軽く（平年比83%）、葉齢は平年並み（平年比100%）となった。

##### イ 本田における生育調査

- ・草丈は25.4 cm（平年比98%）、茎数は173.2本/m<sup>2</sup>（平年比98%）とほぼ平年

平年並みとなっている。

- ・葉齢は4.9葉で平年より0.5葉少なく、葉色は3.5で平年より0.5淡い。
- ・葉色×莖数値は（606で平年比86%）で生育量が少なくなっている。
- ・イネミズゾウムシの発生は4カ所中3カ所で確認されている。

### 3 技術対策

4月から5月中旬にかけて、日照時間は総じて多かったものの、気温は4月中下旬が平年よりかなり低くなった。このことから、現地では苗の草丈が平年の77%となったところや、乾物重も軽いところがあるなどバラツキがみられた。

移植後、5月第3半旬に低温と日照不足があったものの5月上中旬の平均気温は平年より2.0℃高く、日照時間も平年並に経過した。今後、気温の上昇に伴い分けつが旺盛になるものと見込まれる。現在の生育は平年よりやや遅れていると推定される。

気象庁地球環境・海洋部発表（令和2（2020）年5月21日）の「関東甲信地方1か月予報」（5月23日～6月22日の天候見通し）では“気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない”と予想されている。今後、葉色×莖数値を適正範囲に維持するために、以下の点に注意して栽培管理を行う。

#### (1) 水管理

コシヒカリ：目標とする莖数（穂数）360～380本/m<sup>2</sup>（目標収量540kg/10a、総粒数30千～32千粒/10a）、とちぎの星：目標とする莖数（穂数）390本/m<sup>2</sup>（目標収量600kg/10a、総粒数29千粒/10a）を確保するまでは、夜間かん水、日中止水（浅水）として水温・地温の上昇を図り、分けつ発生を促進する。

平年の間断かん水開始時期は6月第2半旬である。ほ場を観察し、目標莖数が確保でき次第、間断かん水に入る。

白未熟粒の発生を防止するとともに、登熟度を高めて良質米を生産するためには、適正粒数を確保することが重要である。初期の莖数が多く、過繁茂気味の生育になると粒数過剰となり、食味、品質の低下を招くおそれがある。適正粒数確保には間断かん水に入る時期が重要となるので、遅れないようにする。

#### (2) 病害虫の防除

##### ア イネ縞葉枯病

ヒメトビウンカのウイルス保毒虫率は、県平均が6.7%で10%を超える地点も確認されている。今後の気温も高いことが予想されることから、本病の発生拡大を防ぐため、地域ぐるみでのヒメトビウンカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用+本田での薬剤散布）を実施する。

##### イ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

イネミズゾウムシの発生が目立つほ場（移植後2週間の水田における成虫密度が

株当たり 0.5 頭以上が要防除水準) では、有効な薬剤により防除を行う。

多雨で湿度の高い日が続くとイネドロオイムシの幼虫発生期間が長引き、多発生になりやすいことから、今後の天候と発生状況に十分注意する。

ウ いもち病 (葉いもち)

取り置き苗は、いもち病の発生源となるため、早めに処分する。

### (3) 雑草防除

中期除草剤の散布は、ラベルを十分確認し、使用時期に注意して散布する。

なお、MCPB等を含む除草剤は低温、シメトリンを含む除草剤は高温で薬害が発生しやすいので注意する。

除草剤散布時の水管理は、散布直前に水深 4～5 cm とし、散布後 7 日間は落水や、かけ流しをしないよう注意する。

※ 薬剤 (登録農薬) はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)

**4～6月**は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。



高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。

- ・複数人での作業に心がけ、一人で作業を行う場合は携帯電話を所持する
- ・こまめな休息と、余裕を持った作業を行う
- ・家族や仲間から、作業者への「声かけ」(注意喚起)をする